

講義科目名称	英語コミュニケーション研究 II	副題	Communicative/Pedagogical Grammar of English
英文科目名称	English Communication Studies II		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
深谷 晃彦			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他 アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
授業の内容 (概要)	英文法の諸問題について、双方向あるいは多方向に行われる討論を通して、基本的な形式や意味、文脈における意味や用法などの観点から理解を深め、その知識をどのように指導に生かすかを検討する。予習内容に基づき受講生がプレゼンテーションを行ったり、それを基に教員と受講生でディスカッションを行ったりすることにより、内容をより深く理解していく。さらに、受講者のこれまでの英語学習経験や英語教授経験も振り返りつつ、学習者がつまづきがちな英文法のポイントとそれをどのように指導するのがよいかなどについても、教員・受講生で議論を行いながら、より実践的な知識を身につける。(この授業は「実務家教員」による、実践的な方法による授業である。)
授業の目的	この授業は、英語コミュニケーションの土台となる文法において、学習者にとって特に問題となる項目の深い知識を得るとともに、その知識を指導に活用する力を身につけることを目的とする。また、英語での受講生によるプレゼンテーションや教員・受講生によるディスカッションを通して、知識の深化および実践における問題点の発見とその解決策の検討を進めていくことにより、英語による発表力や論理的思考、問題発見・解決能力を身につけることも目的とする。この授業は、国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に寄与する。
到達目標	・英語コミュニケーションの土台となる英文法について、基本的な形式や意味、文脈における意味や用法に関するより深い知識と、指導への応用力を身につけている。 ・英語でのプレゼンテーションやディスカッションを通してこれらを達成することにより、英語での発表力や論理的思考、問題発見・解決能力を身につけている。
授業計画	第1回 Introduction 授業の概要を説明し、この授業で扱う内容に関係することで、これまでの自分の英語学習経験や英語教授経験も振り返りながら、学習者としてどのような問題の理解・習得が難しいかを受講生相互で、また教員も含めて議論していく。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第2回 Chapter 2: Articles Part 1 冠詞の基本的な形式や意味について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回 Chapter 2: Articles Part 2 冠詞の文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回 Chapter 3: Tense and Aspect Part 1 時制と相の基本的な形式や意味について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回 Chapter 3: Tense and Aspect Part 2 時制と相の文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回 Chapter 4: Modals Part 1 法助動詞の基本的な形式や意味について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回 Chapter 4: Modals Part 2 法助動詞の文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回 Chapter 5: Conditionals Part 1 条件文の基本的な形式や意味について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第9回 Chapter 5: Conditionals Part 2 条件文の文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第10回 Chapter 6: Prepositions and Particles 前置詞と不変化詞の基本的な形式や意味、文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点とその指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回 Chapter 7: Indirect Objects 間接目的語の基本的な形式や意味、文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点とその指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回 Chapter 8: Infinitives and Gerunds 不定詞と動名詞の基本的な形式や意味、文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点とその指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第13回 Chapter 9: Relative Clauses 関係詞節の基本的な形式や意味、文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点とその指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第14回 Chapter 10: Direct and Indirect Speech 直接話法・間接話法の基本的な形式や意味、文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点とその指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第15回 Presentations 授業で扱った内容やそれに関連する内容で特に関心があるトピックについて、受講生がプレゼンテーションを行い、その内容について教員・受講生でディスカッションする。プレゼンテーションとそれに関するディスカッションの内容を基にレポートにまとめ、学期末課題として提出する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
テキスト	Yule, George. 1998. <i>Explaining English Grammar</i> . Oxford University Press. (ISBN: 9780194371728)
テキスト購入方法	各自で購入する。
参考文献	授業中に指示する。

成績評価の方法	プレゼンテーション・ディスカッション：50%、学期末レポート：50%
教員への連絡方法	初回の授業で提示するメールアドレスによる。
履修上の注意	授業は英語で行う。
授業外学修情報（予習復習）	事前学習：テキストの指定範囲を読み、要点や疑問点を整理しておく。担当者はプレゼンテーションの準備をする。 事後学習：テキストの指定範囲やプレゼンテーション・ディスカッションの内容を復習する。 1学期の授業外学修時間：合計30時間（1回の授業に当たり合計約2時間の予習・復習）
学生へのメッセージ	プレゼンテーションの担当者以外もテキストの指定範囲を読んできていることが前提となるので、必ず予習をしてください。